

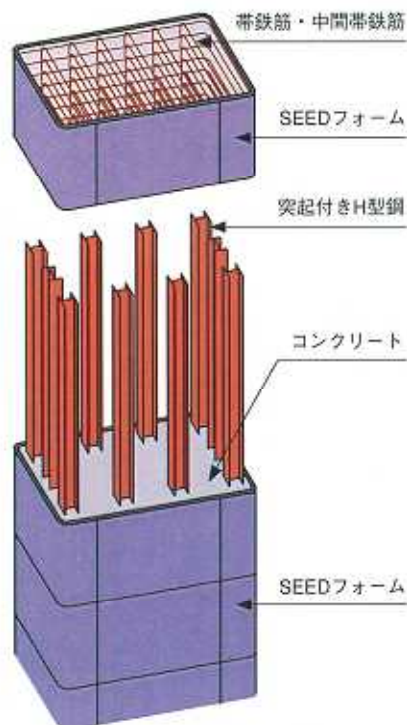
橋脚の合理化施工を実現したREED工法

REED工法とは

「REED工法」は、突起付きH形鋼と高耐久性埋設型枠（SEEDフォーム）を使用した鉄骨コンクリート複合構造橋脚の構造形式と施工法です。突起付きH形鋼は、主鉄筋の代わりに配置して引張力を負担し、またSEEDフォームは圧縮力を負担することができます。橋脚の設計は鉄骨を等価な鉄筋に置き換えた鉄筋コンクリート方式で行います。



西神道路柏木谷高架橋への適用



構造概念図（矩形中実断面橋脚）

REED工法の特徴

- ・単純化された作業の繰り返しのため省人化、省力化、および工期短縮が図れる。（**急速施工の実現**）
- ・剛性の高いH形鋼を使用しているため**耐震性**が向上する。
- ・プレキャスト型枠（SEEDフォーム）を橋脚表面に配置しているため**美観性**が向上する。（**周辺環境との調和**）
- ・SEEDフォームを使用しているため塩害、凍害、中性化などに対する**抵抗性**が改善できる。（**耐久性の向上**）



（財）先端建設技術センターより
技術審査証明を取得（技審証第1004号）